

生徒の英語使用を高める授業

～教科書を利用したフォーカス・オン・フォームの実践を通じて～

福島県立小野高等学校 教諭 吉田 寛

1 研究の趣旨

学習指導要領には、英語による言語活動を授業に取り入れることによって、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を養う指導を行うことが明示されているが、その具体的な方法について広く共有されているとは言えない。また、言語活動中心の授業が生徒にもたらす効果について十分な検証が行われていないため、こうした授業に不安を抱く教員も多いと感じている。

これらの課題を解決する手段として以下のような仮説を設定し、「授業は実際に英語を使用する場」にするための在り方について提案することを研究の趣旨とした。

英語の授業において、教科書を利用したフォーカス・オン・フォームに基づく授業を行えば、文法指導と言語活動を一体的に行いながら、授業の中で生徒が英語を使用する割合を高められるであろう。

2 研究の概要

(1) 生徒および授業担当者への実態把握調査

生徒に対する英語に関する意識調査では、「英語を使えるようになりたい」という質問項目で肯定的な回答が7割を超えた。しかし、「授業の中で英語をもっと使ってみたい」という項目では5割を少し下回る結果であった。また英語担当者への聞き取りでも、言語活動中心の授業に不安を感じていることがわかった。

(2) フォーカス・オン・フォームに基づく授業づくり

教科書を利用した言語活動を取り入れることにより、生徒が英語を話したり書いたりする場を生み出しながら、つまずきや誤りが生じたときに向けられる言語形式への注意をとらえ、「こう使えば正しい」という気づきを促した。

(3) 授業実践

① 言語活動による本文理解

教科書に生徒の興味・関心を向けさせることをねらい、「推測」や「Q&A」などの題材に応じた言語活動を取り入れた。

② 音読と教科書を利用したアウトプット活動

生徒にとって徐々に負が高まる音読練習を取り入れた。読み方を変えることによって、生徒に飽きさせずに取り組ませるねらいもあった。教科書を利用したアウトプット活動は題材の特徴に合わせ、キーワードを使った要約、ディクトグロス、リテリングを取り入れた。ペア活動やグループ活動を通じて行うことで英語を使うことへの不安を軽減しながら、主体的に英語を使用する雰囲気づくりをめざした。

③ インタビュー活動

題材に関連したテーマに沿って生徒相互でインタビューを行い、その中で作成したメモを見ながら他者に伝える活動を取り入れた。

3 成果と今後の課題

実践後の映像記録で英語使用時間を計測したところ、英語使用割合の伸張が認められた。また、言語活動中心の授業で「授業の内容が理解できた」という回答が、各授業を通じて80%以上であった。さらに、「授業で英語を使ってみたい」という質問に対して、肯定的な回答が大幅に増加した。生徒が必要と感じている言語形式の指導を精選できたことや、級友とのコミュニケーション活動そのものが、学習意欲を高める要因になることが確認できたことも大きな成果であった。

今後は教科書を利用した言語活動の更なる開発や、その効果の検証についても継続研究したい。